
質問

euReka

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

質問

【Nコード】

N3667Y

【作者名】

eUReka

【あらすじ】

「ねえ、あなたも放射能たべてるの?」。「まあな、みんなたべてるだろ」と俺は言って、受話器を右手から左手に持ち替えた。

寒い夜、俺は近所で買った一番安いウイスキーを飲みながら、放射能をむさぼる緑色の息子を眺めている。

今夜は風が強いので仕事は休むことになったと、夕暮れの組合長は私に電話をよこした。今夜はゆっくり休め。仕事は逃げて行かないのだから、今夜は風が強いだけなのだから心配するなど。

俺は空になったグラスにまたウイスキーを注ぐと、居眠りをする古時計のようにグラスを揺らしながら自分の息子にこう訊ねる。

放射能はうまいか。

学校は楽しいか。

すると緑色の息子は口いっぱい放射能を頬張りながら、モグモグと、言葉にならない返事を俺にかえす。

そうか、うまいかと俺は息子の頭を撫る。でも放射能を食べた後は、ちゃんと歯を磨くんだぞ、放射能でお腹がいっぱいになったからといって、そのまま眠っては駄目だからな。

すると緑色の息子はテレビの芸人を見ながらゲラゲラと笑う。

父の話などきいてもいない。

まったく。

テレビなんかに出ている人間の、何がそんなに面白いのか俺にはさっぱりわからないのだが、息子の笑う顔を眺めていると、ただそれだけで自分は幸せだと思える。

「ねえ父ちゃん、馬刺ってどんなあじがするの？」

息子の母親は、彼が生まれたあとすぐに死んでしまった。

「じつは父ちゃんも知らないんだよ。さあテレビを消しなさい。子どもはもう寝る時間だ」

きつと馬刺は、馬のあじがするのさ。

「じゃあ人間は、人間の味がするってこと？」

俺は、息子の境遇が不幸だとは思いたくない。たとえ緑色でも。

「だから早く寝ると、お前の父ちゃんはさつきから何度も言っているのだろ。人間が人間を食べたら、もう人間じゃなくなるんだよ」

部屋の隅で眠っていた夜の電話機が鳴る。

出ると女の声がきこえた。

「ねえ、今夜は仕事がないのでしょ。風は強いし、とても寒いでしょう」

緑色の息子はパジャマに着替えて歯を磨いている。

「ねえ、あなたも放射能たべてるの？」

「まあな、みんなたべてるだろ」と俺は言って、受話器を右手から左手に持ち替えた。「ところで俺、君の声をなんとなく覚えてるよ。でも名前が思い出せないな」

「息子は寝たの？ あの、緑色の息子は」

俺は何も言わずに電話を切った。

(ねえ……)

しばらくするとまた電話機が鳴った。

「ねえ、西ローランドゴリラも放射能たべてるの？」

俺は何も言わず、暗い部屋の中で女のを聴いていた。

「ねえ、なぜ電話を切らないの？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3667y/>

質問

2011年11月9日05時10分発行